

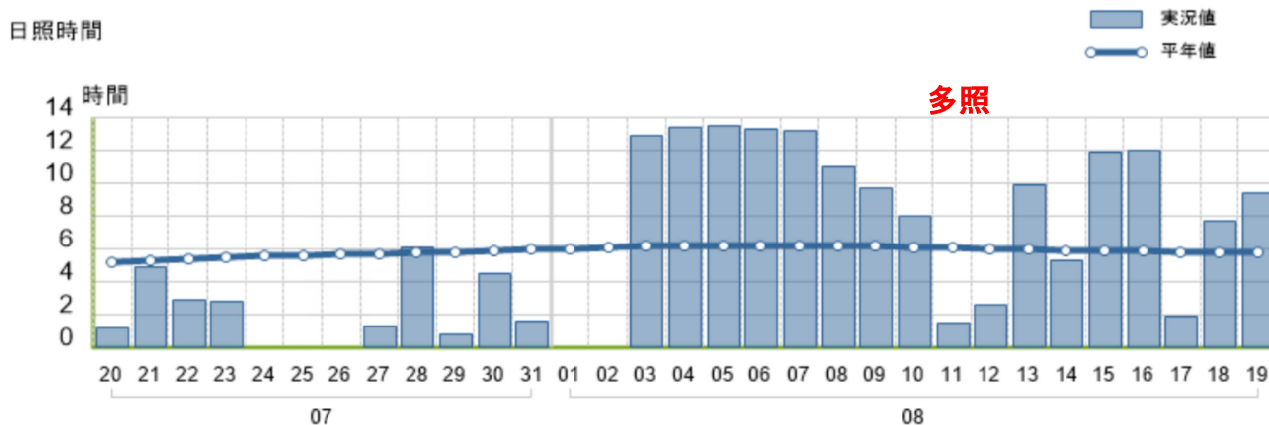
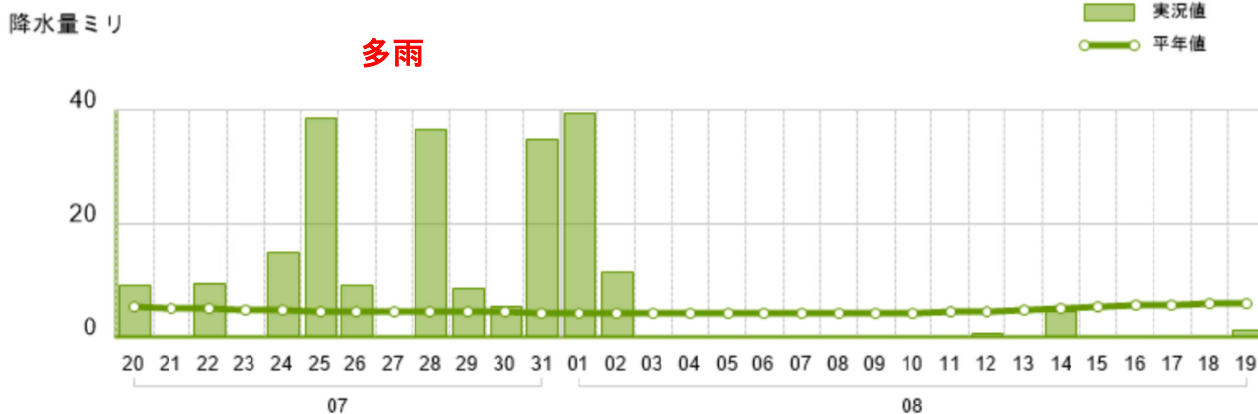
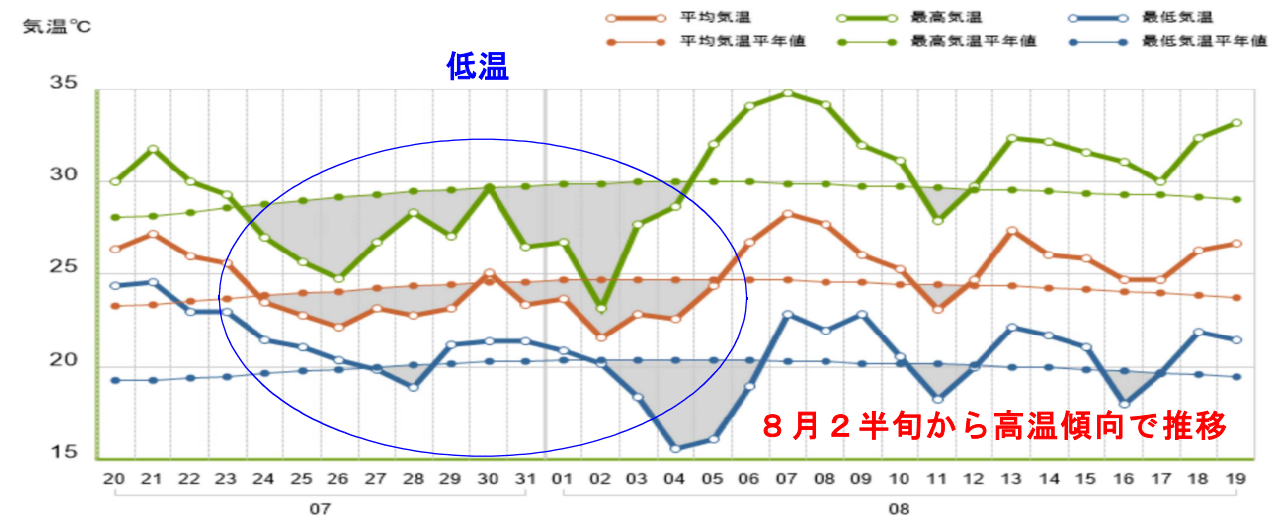
雄勝地域の

稲作だより

令和8年8月21日
雄勝地域振興局農林部
農業振興普及課
TEL 0183-73-5180
FAX 0183-72-6897

刈り取り適期は平年並の見通し。籾の黄化程度を確認！
玄米の充実を高める水管理を徹底しましょう！

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：7月20日～8月19日）



【生育状況】

管内の出穂期は、平年より2日早い7月31日でした。

8月20日現在の定点調査ほ（あきたこまち8カ所）では、一穂着粒数が70.6粒（同比95%）と少なかったものの、穂数が474本/㎡（平年比108%）と多かったため、㎡当たり着粒数は33.3千粒（同比102%）と平年並～やや多くなっています。また、止め葉の葉色は35.3（同比101%）と平年並に推移しています。確保した籾を確実に登熟させるため、次ページを参考に登熟の向上を図りましょう。

○草丈（cm）

	6/10	6/25	7/5	7/15	7/25
本年（2026）	24.6	34.8	51.7	64.9	81.2
平 年	24.9	37.0	53.0	66.1	77.8
平年比（%）	99	94	97	98	104
前年（2025）	23.2	41.8	61.3	73.0	85.2
前年比（%）	106	83	84	89	95

※平年は過去10年間の平均値

○茎数・穂数（本／㎡）

	6/10	6/25	7/5	7/15	7/25	穂揃期
本年（2026）	145	420	570	555	519	474
平 年	117	370	490	490	466	438
平年比（%）	124	113	116	113	111	108
前年（2025）	116	409	469	450	430	407
前年比（%）	125	103	122	123	121	116

※平年は過去10年間の平均値

○葉数（葉）

	6/10	6/25	7/5	7/15	7/25	穂揃期
本年（2026）	6.1	9.0	10.5	11.7	12.8	13.1
平 年	5.9	8.8	10.2	11.3	12.5	13.0
平年差（葉）	0.2	0.3	0.3	0.4	0.3	0.1
前年（2025）	5.4	8.7	10.1	11.5	12.7	13.0
前年差（葉）	0.7	0.3	0.4	0.2	0.1	0.1

※平年は過去10年間の平均値

○葉緑素計値（SPAD）

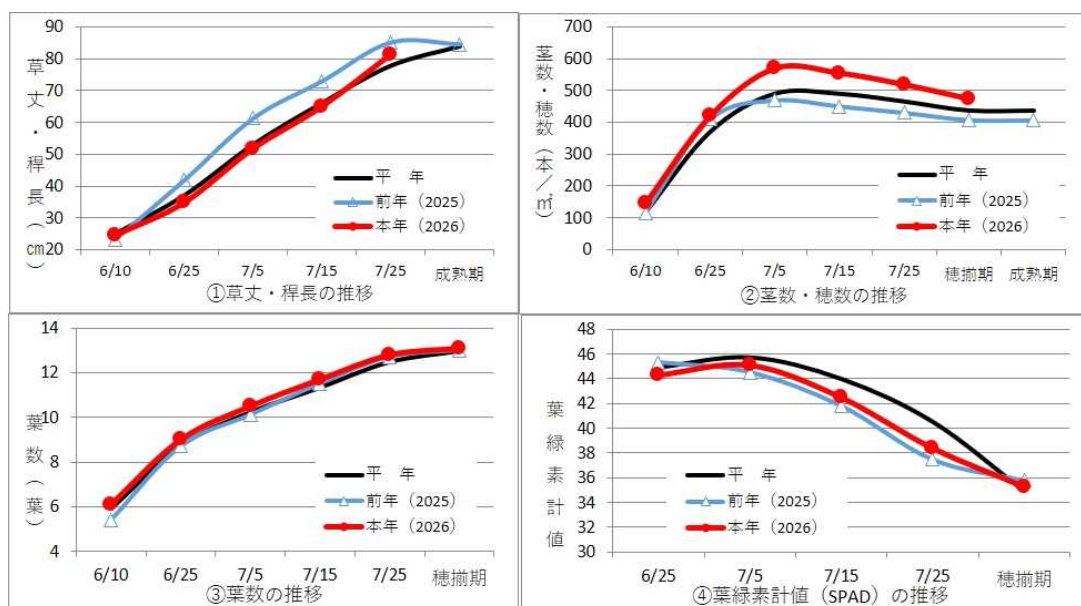
	6/25	7/5	7/15	7/25	穂揃期
本年（2026）	44.3	45.1	42.5	38.4	35.3
平 年	44.9	45.7	44.0	40.5	34.9
平年比（%）	99	99	97	95	101
前年（2025）	45.3	44.5	41.8	37.5	35.8
前年比（%）	98	101	102	102	99

※平年は過去10年間の平均値

○穂揃期の着粒数（粒）

	一穂当たり	㎡当たり
本年（2026）	70.6	33,281
平 年	74.6	32,533
平年比（%）	95	102
前年（2025）	78.2	31,448
前年比（%）	90	106

※平年は過去10年間の平均値



【当面の主要な技術対策】

ほ場をよく観察し、水管理の徹底を図るとともに、畦畔除草、秋作業用機械施設の点検等を実施し、品質の維持・向上に努めましょう。

1 斑点米カメムシ類対策

7月28日に県病害虫防除所から注意報が出されており、斑点米カメムシ類の水田内への侵入量が多くなると予想されています。

出穂期10日後頃の1回目防除に加えて、出穂期24日後頃の2回目防除を畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布しましょう。

- (1) 2回目防除の茎葉散布剤は、キラップ剤（収穫14日前まで）またはエクシード剤（収穫7日前まで）とします。セジロウンカが多発しているほ場では、同時防除が可能なエクシード剤を選択しましょう。今年は収穫時期が平年並の予想ですが、ほ場によっては収穫の早まるところもありますので、薬剤の使用時期（収穫前日数）には特に注意しましょう。
- (2) 殺虫剤を散布する際には養蜂業者と連携をとり、ミツバチなどへの危害防止を徹底しましょう。
- (3) 2回目防除後の草刈りは、収穫2週間前以降に行いましょう。

2 登熟向上を図る水管理

○向こう1か月も高温となる見通しのため、稲体の活力を維持し、登熟の向上を図るための水管理を徹底しましょう。

○出穂後30日間は間断かん水とし、土壤水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壤水分が不足しないように注意します。

○気温が30℃以上になる場合は、かん水して地温を下げ、水分供給と地温低下に努めます。また、フェーン現象など乾燥した風が強い日は湛水状態を保ち、蒸散による稲体の消耗を軽減します。

○落水時期は出穂後30日頃を目安とし、イネの登熟度やほ場の作業性などを考慮して決めます。落水が早すぎると登熟が妨げられるので注意しましょう。生育が旺盛な場合は、米粒の肥大が遅くまで行われるので、落水を早めすぎないように注意してください。

3 刈り取り予測

刈り取り適期はほ場条件等で異なるため、以下の判定法を組み合わせることで総合的に判断しますが、最終的には各ほ場の籾の黄化程度を必ず確認し、黄化程度が90%（高温年の場合は85%）に達した時点を刈り取りの目安とします。

表 出穂後の積算気温及び積算日照時間による刈り取り適期予測（アメダス湯沢）

出穂期	積算気温到達日					積算日照時間到達日
	950℃	1000℃	1050℃	1100℃	1150℃	200h
7月25日	9月3日	9月5日	9月7日	9月10日	9月12日	8月24日
7月28日	9月6日	9月8日	9月11日	9月13日	9月16日	8月26日
7月31日	9月9日 (1日早い)	9月12日 (平年並)	9月14日 (1日早い)	9月17日 (平年並)	9月19日 (1日早い)	8月27日 (8日早い)
8月3日	9月13日	9月15日	9月18日	9月20日	9月23日	8月30日
8月6日	9月16日	9月19日	9月22日	9月24日	9月27日	9月6日
8月9日	9月21日	9月23日	9月26日	9月29日	10月2日	9月13日

※ 7月31日が管内の出穂期（管内の50%が出穂期を迎えたと判断された日）

※ 8月20日以降のデータは平年値を使用。

※ () 内は平年値との比較。

【出穂後の日数】

出穂後の日数が早生品種（あきたこまち等）で45日前後、中晩生種（めんこいな、ゆめおぼこ等）で50日頃が目安となります。

【出穂後の積算気温による判定】

出穂後の日平均気温の積算値が早生品種で950～1,050℃、中晩生品種で1,050～1,150℃を刈り取り適期の目安とします。

早生品種で1,100℃、中晩生種で1,200℃を越えると、立毛中でも胴割米が急増するため、刈り遅れにならないよう注意しましょう。

【籾の黄化程度】

葉や穂首が緑色であっても、**籾の黄化程度が90%以上（ただし、高温年の場合は85%以上）**あれば、刈取適期と判断します。

【枝梗の黄化程度】

穂の主軸について上から**5番目の枝梗まで黄化**した頃が目安となります。

枝梗の黄化程度は年次変動が大きいいため、注意が必要です。

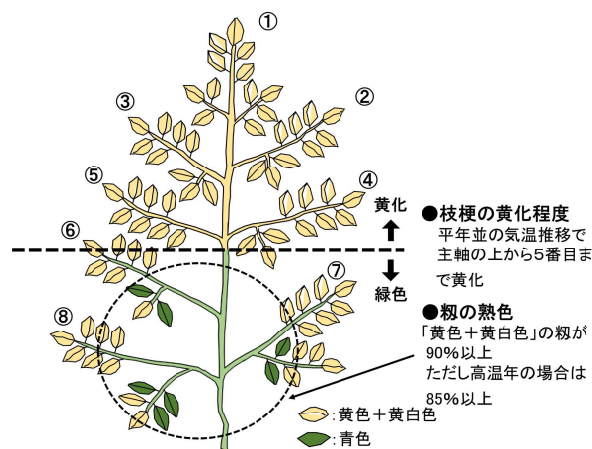


図 籾の熟色、枝梗の黄化程度による刈取適期の判断(模式図)

【向こう1か月の天候の見通し（8月22日～9月21日）】：仙台管区气象台、8月20日発表

天気は数日の周期で変わりますが、気温が高くなる見込みです。。

- 1週目（8/22～8/28）：気温は、高い確率が80%です。
- 2週目（8/29～9/4）：気温は、高い確率が60%です。
- 3～4週目（9/5～9/18）：気温は、高い確率が70%です。

STOP! 稲わら焼き

秋田県では、稲わら焼きは県条例で原則禁止されています。
特に、周囲に影響が出やすい10月1日から11月10日までの間は
全面的に禁止されています。



↑詳しくはこちら
(県HP「美の国あきたネット」)